

オブセオルタナティブ 販売作品リスト

丸山玄太

写真作品 (A1)

価格 ¥30,000-
仕様 UAO (梅田大人の出力)・UIF (FLATFILE オリジナル鉄フレーム)

オブセオルタナティブオリジナル写真集「風が吹いて忘れた数々の事柄」

価格 ¥2,000-
仕様 カラー ＊部数限定

松田朕佳

ドローイング作品

価格 A2 ¥21,800 / A3 ¥18,800 / A4 ¥11,800
仕様 FLATFILE オリジナルフレーム

フォトブック「Window Project」

価格 ¥1,000-
仕様 カラー＊部数限定

小冊子「風が吹いて忘れた数々の事柄」・「Ausgang」

価格 ¥200-
仕様 テキスト＋カラー＊部数限定

ポストカード

価格 ¥150-＊部数限定

堀内彩花

1st オリジナルアルバム

価格 ¥1,200-
仕様 二枚組 CD＊6部限定＊オープニング時のみ販売

オブセオルタナティブ 2013AVEC DVD (松田朕佳 パフォーマンス＋丸山玄太「time lapse - ice」収録)

価格 ¥1,000-
仕様 DVD＊8/25以降販売開始

オブセオルタナティブオリジナルカンバッジ

価格 ¥300-
仕様 5種類 直径32mm ＊部数限定＊オープニング参加証

メノオト (フォトギャラリーポスターペーパー)

価格 ¥200-
仕様 A1 クロス 16 折り A4 カラー



松田朕佳 Chika MATSUDA
ckma2da@hotmail.com
<http://www.chikamatsuda.com>

学歴

2010 年 アメリカ合衆国アリゾナ大学芸術学科修士課程修了
2006 年 ニュージーランド Nelson Marlborough Institute of Technology Visual Art 科卒業
アーティスト・イン・レジデンス
2013 年 AGORA Winter Residency (ドイツ、ベルリン)
2012 年 Prairie Center of the Arts (アメリカ、イリノイ州)
2011-2012 年 Border Art Residency (アメリカ、ニューメキシコ州)
2009 年 Process-Space Art Festival(ブルガリア、ボルチック)

個展

2013 年 TOPOS Highland 2013 アリコ・ルージュ 長野
2012 年 「Fragments of A long Sentence」 Sotoa Gallery (アメリカ、テキサス州)
2010 年 「Melt into the Atmosphere」 Richard Levy Gallery (アメリカ、ニューメキシコ州)
2009 年 「Here-Standing Still」 Graduate and Alumni Gallery (アメリカ、アリゾナ州)
「I cannot be at two places at the same time」 Graduate and Alumni Gallery (アメリカ、アリゾナ州)
2008 年 「Static Motion」 Lionel Rombach Gallery (アメリカ、アリゾナ州)

主なグループ展

2013 年

NIPAF アジアツアー

「Portrait In The Moving Image」 Internationell Konst Fllm Utställning (スウェーデン、ベーナムー)
「Do you see the forest? I see trees.」 AGORA (ドイツ、ベルリン)

2012 年

「The A.I.R Gallery 10th Biennial」 The A.I.R Gallery (アメリカ、ニューヨーク州ブルックリン)
「IRREVERSIBLE Magazine Winners Exhibition」 Wynwood Exhibition Center (アメリカ、フロリダ州マイアミ)
「Moving Image」 Prairie Center of the Arts (アメリカ、イリノイ州ピオリア)
「Videoholica 2012 International Video Festival」 Archeological Museum VernaGallery Arhis(ブルガリア、ヴァーナ)
「NAGANO 新 CONCEPTUS」 志賀高原ロマン美術館 (長野県) 「まつしろ現代アートフェスティバル」 松代藩文武学校 (長野県)
「動きとしてのアート」ヴィオ・パーク劇場 (長野県)
「Hands」 [BOX]Videoart Project Space(イタリア、ミラノ)
「Videoholica Special Selection 2011」 VisualContainer(イタリア、ミラノ)
「New Mexico Showcase」 516 ARTS(アメリカ、ニューメキシコ州)

2011 年

「Delight-becomes pictorial」 Kore Press(アメリカ、アリゾナ州)
「Nod Nod Wink Wink: Con-cep-tual Art in New Mex-ico and Its Influ-ences」
Harwood Museum of Art(アメリカ、ニューメキシコ州) 「メタモルフォーシス」 八十二文化財団ギャラリー 82(長野県)

賞

2011 年 「Videoholica Special Selection 2011」 International Video Festival(ブルガリア)
2009 年 「First Place and Purchase Award」
Harwood Art Center, Crossing 2009 South West Graduate Student Competition (アメリカ)
2008 年 「Outstanding Student Achievement in Contemporary Sculpture Award」
International Sculpture Center(アメリカ)
2007 年 「第 8 回スパイラル・インデペンデント・クリエーターズ・フェスティバル審査員赤池学賞」 (東京)



丸山玄太 Genta MARUYAMA

genta@undergarden.com

<http://undergarden.com>

1982 年生まれ

2004 ビジュアルエコー" DOGS" / 玄照寺 / 小布施

ディラッドスクリーン投影システムのアーカイブデータを使用したライブ構築を担当

2005 ビジュアルエコー" 踊る蛹" 自主映画 / 玄照寺 / 小布施

2007 ビジュアルエコー" クォーツ" / オブセコンテンポラリー / 小布施

音響・映像・スクリプトデータのランダムループプログラム構築を担当

2007 ビジュアルエコー" メモリーズ機能としての映像" / オブセコンテンポラリー / 小布施

写真作品・ディレイリアクションライブモニターインタラクション作品出品

2011 Black & light / カフェ春や / 軽井沢

紙焼きシリーズ写真作品

2011 TOPOS 02 / ギャラリー花蔵・アートスペース FLAT FILE

映像作品「time lapse - ice」展示

2012 Genta Maruyama Photo 69 / time lapse - ice

紙焼きシリーズ写真作品

TOPOS Highland + / アリコ・ルージュ / 飯綱

2013 オブセオルタナティブ

トボス高地 丸山玄太個展 / アリコ・ルージュ / 飯綱

映像クリエイターとして静止画（写真）及び動画（映像）作品制作と併行して、
インターネットデータアーカイブのプログラム開発及び構築を行っている。
現在日本大学哲学科在籍

作品データアーカイブ : <http://undergarden.com/portfolio/>

works site : <http://logue.jp>

データアーカイブ構築クライアント

Sagami Shoko Co.,Ltd / <http://www.sagami-sk.co.jp/en/>

株式会社ふかさわ / <http://www.co-fukasawa.jp>

真田幸宏の文藝 / <http://kikutsura.com>

FLATFILE / flatfile.jp

topos

青木病院

GRACE NOTE

株式会社オートリサイクル長野

新吉塚病院

HITEC 法政大学 情報技術（IT）研究センター

hirofuminagano.com

ラジオ NIKKEI

アボットジャパン

等

オブセオルタナティブ

おぶせミュージアム・中島千波館には、「木造館」という一見すると普通の住居のように見える和室の展示空間がある。

この夏「木造館」という場所と二人のアーティスト、松田朕佳と丸山玄太が出会い、「オブセオルタナティブ」として始動する。

「オルタナティブ」。

この言葉は「代用の」「もう一つの選択」といった意味があり、「既にあるものから新しいものを創造する」と捉えることもできる。

でもそれはさておき、難しいことは考えず、とにかく玄開を上がって、中を見て、二人の表現に触れてみる。

何もわからないかもしれない。

でも何かを感じるかもしれない。

そこにはきっと何かがあるはずで、それをこの目で、心で、確かめるのだ。

おぶせミュージアム・中島千波館

アメリカ在住の映像作家ジョナス・メカスがこういう事を言っています。「子供を叱りつけるとその一瞬で世界はやがてその影響で大きく変わってしまう」と。日々の微細な日常的動きとしての人間の行為には法則はないのでその効果は意識されずに柔らかな変化を繰り返しやがて出来事をふいに感知するのです。人間はその出来事を唐突に感じます。それが人間の本質であります。オルタナティブとはその微細な唐突に注意をはらい、観察分析を行いその波及したベクトルに対してミリ単位で検証と修復を行う事かもしれません。「この国の美術というものに対する何か」などではなく、人間の本質に焦点を充てる事が今回の試みです。場所に対して人間が変容を積極的に模索する、土地に対してオルタナティブな未知の世界への可能性を探る試みです。

子供を叱りつけることは世界を変えないという傲慢です。叱りつけられ項垂れた子供に対して丁寧な修復を行い前を向きなさいと倫理的な「対処」を試みる。人間はすべて子供かもしれません。修復的行為を継続的にゆっくりとそのベクトルを疑わず場所がほかのどこでもないかけがえのない場所になるよう祈りを込め、「わたしたち」が生きてゆくこと自体を提示します。

コーディネーター 納和也

オブセオルタナティブとは

小布施という場所を探索検証・記憶化するプロジェクトをオブセオルタナティブと名付け、美術作家 松田朕佳 (1983-)・映像クリエイター 丸山玄太 (1982-) 両氏によって展開します。

場所の解釈を作家たちが試行するトポスプロジェクトとして発想され、美術の社会的互恵性と機能を試行構築継続する企画展となります。

松田朕佳は事前にロケハンした小布施の磁性萌芽する場所(花井裕一郎氏宅倉庫)の空間再生構築を伴った非公開の作品制作(インスタレーション)を行い、丸山玄太はその進行及び場所の成立過程を自立作品として映画製作に似た手法で撮影出力制作します。ロケ及びインスタレーションの後、小布施での制作経緯をトータルにおぶせミュージアム・中島千波館併設木造館にてオブセオルタナティブとして再構成し、彼ら作家たちによる小布施物語を表象します。2013年は池田満寿夫美術館でのマツシロオルタナティブと相互照応同期します。

計画者 / 町田哲也 (トポス統括)

アートディレクター・宮下真美

コーディネーター・納和也

オープニングケータリング・安達浩平 (ロジェ・ア・ターブル)

非公開インスタレーション設置協力・花井裕一郎

出力サポート・梅田明雄 UAO (梅田版画工房)

額装・サポート・モリヤコージ (ART SPACE FLATFILE)

協力・松本直樹 ごとうなみ 堀内彩花

計画・町田哲也

サポート

おぶせミュージアム・中島千波館

池田満寿夫美術館

ビジュアル エコー

トポス

松田朕佳非公開インスタレーション展開空間
花井裕一郎氏宅倉庫



車利用でのアクセス 上信越自動車道：小布施スマートICから5分
上信越自動車道：信州中野ICから10分
電車利用でのアクセス JR 長野駅下車 長野電鉄線に乗りかえ、小布施駅下車 徒歩12分。
駅前から小布施周遊シャトルバス（1・2月は運休）がご利用できます。
午前9時～午後6時
入館料 / 一般 500円 高校生 250円 小中学生無料
※20人以上の団体入館は、1割引きになります。
※障がい者手帳、療育手帳等をお持ちの方は半額になります。
※特別展開催の場合、料金が変わることがあります。

おぶせミュージアム・中島千波館
長野県上高井郡小布施町大字小布施 595
Tel 026-247-6111 Fax 026-247-6112

INSTALLATION

インスタレーションという仮設は消えて無くなる表象手法である。The new york earth room(1977),The broken kilometer(1979)などで知られる Walter De Maria(1935~)のように時には印象的な仮設を常設とする試みもある。けれども喪失する前提で行われることがほとんどであり、それ故の展開がインスタレーションである。

作家の「ものをつくる」という立ち位置が、画布や彫刻材から時代によって剥離され「コトを成す」極端に言えば「生きる」とまで突き詰める形態が現れ、サイトスペシフィックであれパフォーマンスなものであれ、意識を投影表象する人間が更に影響し合い、素材と動機を自在に探索し場所を求める姿勢は、奇妙なものではなくなった。

この国にも「霽れと藝」という日常からの差別化の慣習が祝祭という仮設状況において連綿と経験されており、神楽や神輿あるいは冠婚葬祭なども、インスタレーションに淡々と展開している。ただしこれらは雛形を繰り返すことで記憶化される。

インスタレーションは消えて無くなるのだから、物をこしらえ売ることによる生業とする営みとしては成立しない。けれども作家らがなんとかしてそれを行うのは、意識と欲望に促されるのであり、確かに仮設の空間は他の表象では体感できない種類の経験あるいは世界を与えてくれる。

今回のオブセオルタナティブの仕組みは、美術家の松田朕佳が事前にリサーチした小布施都住に在る、過去キノコ工場として使われていた花井裕一郎氏宅倉庫の一部を、インスタレーションを行う場所と空間と定め、数回に渡り非公開にて空間構築を行いその経緯を、映像作家の丸山玄太が、彼自身の自立作品として撮影し、梅田版画工房の協力で大型出力(UAO)したもの及び限定部数の小冊子を展示展開する。松田はこのインスタレーション構築展開に平行して空間に自らの軀を与えるパフォーマンスなアクションを加え、公開展示会場である、おぶせミュージアム・中島千波館・木造館にて、非公開インスタレーションの経緯で成立した展開(インスタレーション+パフォーマンス+α)を新しく行う。

言わば映画撮影的な進行で進むこのプロジェクトは、一見、松田と丸山の「主と従」「メインとサポート」あるいは「役者と監督」という浅薄な印象認識が降りるかもしれないが、インスタレーションという儚い状況に対する記憶化をふたりの作家が平等に行うのであり、互いが互いをこの場所での存在根拠・拠り所として作品成立させるしかない。丸山の作品が松田の記録すべき顛末とは異なるみつめとなるだろうし、そういう意味で非情に際疾いものであり、この震える輪郭が記憶化を促す仕掛けとなる。

変哲のない従来の箱ヘユニーク(個人の自在)を並べるような姿勢で行う「展覧会」ではなく、人間の能力を場所において活性し、その行方を示すことが、このプロジェクトの醍醐味でもある。ゆえにこうした取り組みをシステムとしたわけであり、作家たちはこの企画において制作を促され、この場所において「だから、こそ」という新しく示す形が生まれるといっている。

SESSION

オブセオルタナティブ 2013 AVEC は、企画初動当初から、トポスという場所の検証の横に、様々な多様性を接続させるという性格を軸に進行した。作家自身であってもサポートする側であっても、あるいは賛同参加される側であっても、当該企画の磁場のようなものを強化しつつ同時に促されるという展開を、むしろ好ましい進捗と、各位が受け止めることで成立している。

本来ならば、キュレーション依存、あるいは作家主体のプロジェクトが、その責任において肅々と進行する従来型芸術プロジェクトを一旦解体し、関わる人間すべての立ち位置を一度フラットに平等化させ、主役である作家作品の表出に対して、均一な責任と歓びを享受するプロジェクトとさせる為に、スピンオフ的なものでしても同じ土俵に併置することで、むしろ当該プロジェクトの意味合いが拡張する手応えはある。

非公開のインスタレーションの設置という作家側にすればリスクのある試みを松田朕佳はひとつのトレーニングも含む試験的な展開と受け止めた。これを撮影した写真作品の制作自体が自らの作品と成ることを作家に従属したお抱え記録担当ではないスタンスで行うことが可能だと自らをプロジェクトに丸山玄太は位置づけた。これがオブセオルタナティブのはじまりにあり、インスタレーションを行う場所として小布施都住の花井裕一郎氏宅倉庫(旧きのこ工場)を、その現場として使用許諾をお願いし、倉庫代わりに使われていた空間の片付けから開始し、多くの方の協力を得て松田朕佳インスタレーションを設置。数回に渡る撮影(松田パフォーマンスも含む)の後、ソングライターの堀内彩花がこの空間でオリジナル楽曲を唄うPV撮影を行い、後日これはDVD販売される。丸山玄太写真作品は全て、フォトギャラリーポスターペーパー「メノオト」創刊時に開発開始された梅田版画工房主宰梅田明雄氏によるUAO(梅田大人の出力)にて出力され、作品は、FLATFILE(モリヤコージ)オリジナル鉄フレーム(樋口工業発注品)UIFにて額装されて販売される。つまりひとつの丸山玄太写真作品売却益はふたりの作家と出力担当の梅田氏、額装のモリヤ氏に配布される。

松田朕佳のインスタレーションは、丸山玄太写真作品として遠り、その作品はいわば多くの関係者のセッションによって成立している。ソングライター堀内彩花の参画も、インスタレーションの空間の機能性と可能性を問うものとなり、同時に音楽系と視覚芸術系との交錯の試論として今後、様々な展開が予想される。

同期するマツシロオルタナティブの、美術館機能拡張利用を相対的に俯瞰すれば、芸術の多様性がもたらす可能性と場所の活性のヒントが多く見いだせる。

松田朕佳は準備期間中 NIPAF アジアツアーを敢行し、兵庫や名古屋での活動も重複している。丸山玄太は9月からのトポス高地個展を控え当該企画と平行して準備している。梅田明雄氏もリトグラフ摺師として連日の激務の夏を過ごしており、FLATFILE モリヤ氏も同様。他、関わる人間すべて忙しく時間の無い中で仕事をしていただいて感謝に堪えない。けれども、個人的には目が回るほど忙しくしている仕草のほうが余程人間の本質的なものが率直に顔を出すものだから、時間をかけてじっくり慎重になどという諸諺や皮肉や悲観が生まれる隙をひねり潰すにはよい状況なのだと、これをよしとして考えた。

文責 町田哲也/計画者